

## 巣箱によるアカゲラの繁殖

原田 修<sup>1</sup>・佐野清貴<sup>2</sup>

## 1. はじめに

アカゲラ *Dendrocopos major* は、北海道と本州に分布し、本州中部以北では山地の林に普通にみられるキツツキの仲間である。1988年5月から7月にかけて、ウトナイ湖サンクチュアリ内に設置した丸太で営巣、繁殖した。アカゲラが人為的に設置した丸太で繁殖した例は珍しいので、観察記録を報告する。報告にあたり、資料を提供していただいた由井正敏氏、調査等に協力していただいた三木昇氏とボランティア諸氏に厚くお礼申し上げる。

## 2. 設置の目的、状況

ウトナイ湖サンクチュアリ、ネイチャーセンター（以下“NC”と略）周辺の環境は、ハンノキの疎林が優先し、アカゲラが営巣できるようなある程度の太さの木がみられない。そこで、自然に親しむミニ・サンクチュアリ施設の一環として、丸太（北海道大学苫小牧演習林より寄贈）を設置し巣箱の供用を試みた。観察は、ウトナイ湖サンクチュアリの調査活動として行った。

材はミズナラで、腐朽菌により3分の2が柔らかくなっている。上部より8 cmの所に直径2 cm、深さ1.5 cmの穴を明け、巣穴掘りを誘導した。これに上下に板をはり支柱を4本つけ、全体が2.1 m程の高さに仕上げた（図1）。設置位置はNCからみえるエサ台の奥で、NCとは23 m程の距離がある（図2）。

## 3. 繁殖状況

丸太は3月に設置した。巣づくりの開始時期は確認できず、5月17日に初めて巣穴（誘導した穴は使わず自分で掘ったもの）をのぞく雄が観察された。以下、日を追って記すと

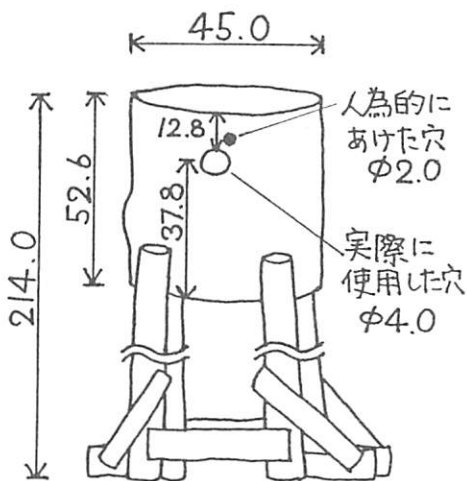


図1. 設置丸太の寸法（単位：cm）



図2. 設置した丸太を利用して繁殖するアカゲラ

- 5/19 雄の巣づくり。巣近くで交尾。  
 20 巣ほぼ完成。  
 21 交尾。  
 23 雌が巣に入ったまま。この頃より抱卵に入ったものと思われる。
- 6/1 抱卵中。1～2時間毎に雄雌交代。  
 9 餌を運び始める。  
 10 雄がNCの窓ガラスに激突し死亡（飛んでいる虫を追っていた模様）。  
 11 餌運び：観察1時間の間に4～25分間隔。  
 13 雌が巣内にいる時、別のアカゲラ雄が来て巣穴をのぞく。内より雌が威嚇。  
 17 雌が留守中に、別のアカゲラ雄が来て巣穴をのぞく。  
 ・餌運び：観察6時間の間に、最大20分ではほぼ2～8分間隔。  
 ・時々木くずをくわえて飛び去る。  
 22 雌は巣穴に入らず外から給餌するようになり、ヒナの顔がみえ始める。  
 29 雌は巣穴より少し離れて給餌するようになり、ヒナは体をのり出して餌をもらう。  
 30 雌は全身の1/3ほどをのり出すようになる。  
 ・雌は巣に来ても給餌せずに飛び去るようになり、1回の給餌で与える量も少ない。  
 ・1～10分間隔でやって来るが、給餌しない頻度が高い。  
 ・ヒナは親の足をついたり、くわえて引っぱりする。顔がみえる時は絶えず鳴いているが、時々巣穴の中へ引っこむ。
- 7/1 ．AM. 5：02 内から押された形で、ヒナが巣穴から落ちる。2、3度戻ろうとして支柱を上るがすべり落ち、林の方へ飛び去る。  
 ・餌運び：最大28分で他は2～7分間隔。  
 ・6：31 雌が給餌を終えて飛び去った10分後、2羽目のヒナ自発的に飛び立つ。  
 ・餌運び：2～9分間隔。  
 ・8：55 前回の給餌から50分おいて、雌が給餌後飛び去ると後を追うように3羽目のヒナが巣立つ。  
 ・12：18 4羽目のヒナ巣立つ。3羽目のヒナが巣だってから雌は一度も来なかった。

#### 4. 他の巣箱利用例

アカゲラの巣箱利用について、他の例を調べた限りでは、外国での確実な報告はない（由井 1986）。国内では、林業試験場東北支場でマツ枯防止の研究として、マツノマガラカミキリの幼虫の天敵であるアカゲラの誘致・増殖のために、人工巣の架設実験が行なわれている。カンバ類の間伐木の丸太を利用し、中をくり抜いたもの（中空式）、それにオガクズを詰めたもの（オガクズ式）、ただの丸太に入口部だけ小穴を開けたもの（入口式）、とさまざまなタイプのものが試みられた。中空式やオガクズ式は、ねぐらには利用されたが繁殖には至らず、入口式に3例ほど営巣が確認された（由井 1986, 1987）。

## 引用文献

- 由井正敏・鈴木祥悟. 1986. キツキ類による人工巢の利用, 東北支場たより, No. 299  
由井正敏・鈴木祥悟. 1987. アカゲラの保護対策—マツ枯れの予防を旨として, 東北の自然 26 : 4 - 8

1. 〒059 - 13 苫小牧市植苗 150 - 3
2. 〒197 福生市加美平 4 - 1, 5 - 301

## A Breeding record of Great Spotted Woodpeckers using a handmade log

Osamu Harada<sup>1</sup>・Kiyotaka Sano<sup>2</sup>

From May to July 1988, a Great Spotted Woodpecker *Dendrocopos major* was found breeding inside a handmade log at the Lake Utonai sanctuary. The log was *Quercus mongolica* that had become soft by bacteria. We had planned to make an artificial hole in the log but the woodpecker managed to make it by itself. During the breeding period the male died, so the female reared the four chicks alone.

It is very rare for the Great Spotted Woodpecker to use an artificial log for breeding. At present, there are about three other known examples of this in Japan.

1. Lake Utonai sanctuary. 150-3 Uenae, Tomakomai-shi, Hokkaido 059-13
2. 5-301, 4-1 Kamidaira, Fussa-shi, Tokyo 197

1988年10月5日受理